

## 洲本市・神河町・加西市・姫路市視察報告書

10月17日～10月19日（2泊3日）兵庫県三市一町を伊豆市教育厚生委員会の一員として行政視察してきました。ここに報告致します。

### 洲本市：再生可能エネルギー施設整備事業

先方には前もって質問事項を渡してあり①～⑤については丁寧な回答を頂いた。ウェルネスパーク五色（高田屋嘉平衛公園）の施設内にて説明会場を設けて頂き市議会議員、行政担当者に出席頂き洲本市の概要説明があった・豊かな自然の輝き・食の輝き・積み重ねてきた歴史の輝き・輝きを伝える伝統・人が輝く笑顔が輝く・まちで輝く×生業、“輝く”をテーマにした洲本市の市勢要覧を紹介された。その中・人が輝く笑顔が輝くのなかで「あわー」としてサイクリングファンから注目されている淡路島。一周150kmのロードサイクリングの事が気にかかりました。当市も2020東京オリンピック“ケイリン”の開催地、レガシーの構築の一環として参考になるかもしれないと感じました。

洲本市は、地域と大学の連携によるまちづくり「域学連携」に2013年度から取り組み、その一環としてバイオマス産業都市構想を展開、○菜の花（市の花）、ヒマワリプロジェクトの植物油精製○ピコ水力発電○ため池上に浮遊するソーラー発電○バイオマスボイラーなどによるエネルギーの持続可能を図っている。

\*特にバイオマスボイラーはこの施設（ウェルネスパーク五色）の給湯をになっている、現物を見学、現場にて説明を受けた。放置竹林（野生動物の住処）の解決策を模索するなかで竹チップボイラーの導入が図られた。竹材の買取り、竹チップ工場の設立、竹チップの買取り、ボイラーの導入費用（外国製）、ボイラーのメンテナンス費用、A重油からの竹チップ（バイオマス）への変更での採算性バランスは？等々バイオマス産業都市構想の名のもとに展開するそれぞれの事業の中身は順風満帆ではないとの事でした。しかしまちづくり「域学連携」は間違いなく進捗しているとの事でした。

市民の協力、参加と大学（龍谷大学）の連携は確固たるものに育っているようでした。

帰り道、予定にはありませんでしたが北淡震災記念公園・野島断層保存館を見学しました。野島断層を保存し、阪神淡路大震災を伝え、防災について考えさせてくれる施設でした。

### 神河町：廃校になった小学校跡地利用

町長、議員、担当者、施設担当者のお迎えを受けました。メイン席にコスモスとススキの花が生けられていました。豪華な生け花も結構ですがどなたかが自身の庭先より取ってきたものでしょうか先方の心根を感じました。

町長は冒頭の歓迎挨拶とここまでに至った経緯を述べられて退席されましたが

先方に前もって渡した質問事項①～④には行政担当者及び施設側担当者より回答頂きました。

その後施設側担当者（Resort によん in 神河）の案内にて施設内を見学、外観は小学校ではあるが内は全面改装されており元小学校の面影は無い。総合福祉施設として小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者向け住宅を売りの民間経営の施設になっているようでした。行政側との関係は詳細については明かしてもらえず賃貸なのか売却なのかは解らずでした。町長が（株）アミューズ 24（Resort によん in 神河の親会社）に対して廃校利用を持ち掛け引き受けて貰った関係である事は察しとれた。施設側担当者も廃校の改築工事は新しい建物を建てた方が経費的にも精算的にも合っているが町からの要請である事、将来的な当社と町の上を鑑み引き受けた旨の発言があった。想像ではあるが無償譲渡と思われる。伊豆市内の老人介護施設とは基本構想的に違いがある。しかし遠くない将来の伊豆市の廃校利用問題の参考の一例ではあった。

加西市：ただのまち加西の子育ての応援

加西市市役所内会議室にて市議会議員、担当部長、担当者（3名）と対面市議会議員より歓迎のご挨拶をいただき、先方に前もって渡した質問事項①～④には行政側担当者より回答をいただきました。

その後質疑応答が行われた。当市参加者より多くの質問発言がありその中から特にただのまち加西の実現への財政支出の根拠は？質問に対してふるさと納税です。との回答；加西市の令和4年度のふるさと納税額は63億円、そのうちの70%の返礼品がアラジン（地元企業）製のオープンレンジである事（商品価格は15,000～40,000円）が回答された、ふるさと納税は返礼品に左右されるところは理解できるが、オープンレンジは一家に一台あればよいもの、かつ長年使用できる。63億円の70%は44億円になる、将来に向けてふるさと納税として期待してよいのかと思えた。危うさを感じたのは私だけだろうか。しかし加西市はふるさと創造部人口増政策課を設置、「子育て応援5つの無料化」のプロモーション戦略を積極的に展開、人口減少に歯止めをかける自助努力をしている。

予定には無かったが帰り道鶉野飛行場跡の「sora かさい」を見学した。

姫路市：文化財の展示・管理

姫路市立美術館の所属学芸員による美術館の歴史、展示品の説明を受けた。

残念ながら前もって渡した質問事項①～③については回答はなし、無理からぬことですが学芸員のみでの対応でした。

総評：行政視察を通じて初めての経験をすることが多く大変参考になりました。教育厚生委員会の所属議員としてこれからの議員活動に役立てて参ります、行政側と市民は対峙する立場ではなくお互いの立場を理解してタッグを組み、住みやすい地域づくりのための合意形成をしていくべきと強く感じました、そのための議員の役割は大である。至誠憂郷の思いをより強く思えた行政視察でした。

以上を持ちまして伊豆市教育厚生委員会行政視察報告書とさせていただきます。

鈴木優治